

2025年3月期 決算説明資料

2025年5月13日

株式会社 **ダイセル**

1. サマリー

- (1) サマリー
- (2) 足元的最優先課題の対応と効果
- (3) これまでの経過とこれから

2. 2025年3月期 決算

- (1) 業績/ EBITDA分析
- (2) セグメント別 売上高・営業利益
- (3) セグメント別 事業概況
- (4) 連結貸借対照表
- (5) 連結キャッシュ・フロー計算書

3. 2026年3月期 業績予想

- (1) 業績予想/EBITDA増減分析
- (2) セグメント別 売上高・営業利益
- (3) セグメント別事業計画

4. 財務戦略

- (1) 重要経営指標（ROIC・EBITDA等）の進捗について
- (2) キャッシュアロケーションおよび政策保有株式の状況
- (3) 資本収益性指標および株価関連指標について
- (4) 株主還元
- (5) 株主・投資家との対話

5. Appendix

- (1) Appendix

2025年3月期実績

| | |
|--------|-----------------|
| 売上高 | 5,865億円 (+5.1%) |
| 営業利益 | 610億円 (△2.2%) |
| EBITDA | 1,024億円 (+6.5%) |
| ROIC | 6.1% (△0.2pp) |

為替レート USD/JPY : 153円

- 日系自動車メーカーの認証不正問題の影響を受けたものの、自動車関連市場や電子材料関連市場の需要が回復基調であること、為替影響などにより、売上高は増加。
- エンジニアリングプラスチックを中心とした販売数量の増加や、為替影響などがあったものの、一酸化炭素 (CO)プラントのトラブル影響、減価償却費の増加等により営業利益は減少、EBITDAは増加。

2026年3月期予想

| | |
|--------|-----------------|
| 売上高 | 6,000億円 (+2.3%) |
| 営業利益 | 540億円 (△11.5%) |
| EBITDA | 970億円 (△5.3%) |
| ROIC | 5.4% (△0.7pp) |

為替レート (想定) USD/JPY : 140円

- エンジニアリングプラスチックや自動車エアバッグ用インフレータの販売数量増加などにより増収を見込む。
- COプラントトラブルの解消やセイフティ事業の米国拠点の生産性改善などの増益要因があるものの、為替影響や、エンジニアリングプラスチックの減価償却費や定期修繕費用増加の影響などにより営業利益は減益、EBITDAも減少を予想。
- エンジニアリングプラスチックの定期修繕費用の増加は一時的な増加であり、2027年3月期には業績向上を見込む。

株主還元

DOE 4%以上かつ総還元性向40%以上を目標に安定的で継続的な株主還元を継続

- 2026年3月期年間配当金： 1株当たり年間配当60円を計画
- 1,000万株の自己株式消却を決定 (消却前発行済み株式総数の3.61%)

足元の最優先課題の対応と効果

足元の収益基盤を強固なものにし、引き続き資本効率にこだわり、スピード感をもって戦略を進めていく。

- ・ 一酸化炭素（CO）プラントトラブル改善：プラント運転の恒久的安定化へ
- ・ セイフティ事業米国拠点：収益改善ステージから成長ステージへ
- ・ エンジニアリングプラスチック事業：POMやLCP、COC増産投資による拡販

| 優先課題 | 2025年3月期の状況 | 2026年3月期計画 | 2027年3月期計画 |
|-----------------------|---|---|--|
| COプラント トラブル*改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 影響金額：主に操業度損で約120億円（2024年11月発表予想数値から、計画外トラブルが発生したため影響金額が約30億円増加） ・ 石炭炭種変更に伴って発生した機器腐食や原料仕込みポンプ突発停止によるプラント全停止トラブルに対し、材質変更やメンテナンス強化を実施。 ・ 製造原価への影響金額は120億円だが、翌期に在庫として繰り越される分が20億円あるため当期の損益影響は△100億円。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1Q定期修繕（以下、定修）にて、配管の腐食対策や石炭の閉塞対策等の恒久対策を実施。 ・ 前期の製造原価への影響金額120億円がなくなるものの、前期からの繰越在庫の影響20億円により、当期の損益影響は△20億円（前年度比+80億円）。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1Q定修にて長納期品の納入など設備の入れ替えを実施。 ・ 安定且つ効率的なプラント運転を推進。 |
| セイフティ事業 米国拠点の生産性改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 4Qに黒字化達成 ・ 4Qに可動率80%達成 ・ 顧客、本社、各拠点での連携を強化し生産性改善(自動化・作業効率化)、部品原材料費低減を推進。 ・ 生産計画や部品購買の業務適正化により航空輸送などの緊急対応を抑制。 ・ 人事制度、報奨制度等の見直しによりやれば報われる環境の整備。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 通期で安定的に黒字化、可動率:80%以上を継続。 ・ 生産性改善により通年の黒字化を計画。セイフティ事業全体で営業利益率は2ポイント以上の改善を見込む。 ・ 購買部門の集約やロジスティック業務の効率化を実施。 ・ 他拠点バックアップ品の生産地移管を行い、さらに、部品や原材料の現地調達化を推進し、米国の追加関税にフレキシブルに対応できる体制を構築。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規プログラム獲得によるインフララインの増強。 ・ 既存事業に加え、新規デバイス事業を拡大し、収益率の向上を図る。 |

石炭の炭種拡大による原料調達の安定化

油炭価格差によるコストメリット効果

*COプラントは、酢酸の主原料である一酸化炭素を製造するプラントで、石炭を原料とする。以前は原料にアスファルトを使用していたが老朽化更新に伴い、原料を石炭に変更し2024年2月に稼働した。当初ロシア炭の使用を前提とした仕様だったが、世界情勢によりカナダ炭に切り替えを実施。炭種の違いからプラントに不具合が発生していた。

足元の最優先課題の対応と効果

成長牽引事業であるエンジニアリングプラスチックの2026年3月期計画は増収（対前年度）を見込むが、POM、LCPの新プラント稼働による減価償却費や定修費用の増加により減益見通し。

2027年3月期においてはPOM第2期増設とCOC新プラントの稼働を予定しており、減価償却費等が増加するもののLCPを含めた増産効果により、業績の向上を図る。

| 増産樹脂 | 2025年3月期の状況 | 2026年3月期計画 | 2027年3月期計画 |
|------|---|---|---|
| POM | <ul style="list-style-type: none"> 中国の第1期新プラントは2024年11月稼働開始し、年産9万トン（ポリプラスチックの引き取り分6.3万トン）のプラントはフル稼働中。 中国での既存の6万トンプラント（ポリプラスチックの引き取り分4.3万トン）は停止。能力増加は実質2万トン。 | <ul style="list-style-type: none"> 中国国内需要(市場成長年率3~4%)に対し、中国9万トンプラントのフル稼働に加え、不足分はマレーシアと富士工場からの応援出荷を継続する。 中国市場向けの現地生産比率の向上を目指し、第2期増産計画を推進。 グローバル販売数量は約6%の増加を計画。 | <ul style="list-style-type: none"> 中国での第2期プラント6万トン（ポリプラスチックの引き取り分4.3万トン）が3Qに稼働開始し、中国で年産能力15万トン（ポリプラスチック分10.6万トン）の体制を確立。 これまで中国向けに出荷をしていたマレーシア品については、インド、ASEAN、欧米への拡販に注力し、グローバルに展開。グローバル販売数量は約5%の増加を計画。 |
| LCP | <ul style="list-style-type: none"> 電子デバイス関連需要の回復により、販売数量はほぼ計画通り。 台湾での増産プラント（5千トン）は2025年2月稼働。 | <ul style="list-style-type: none"> 回復する需要を取り込み販売数量は約15%の増加を計画。 新プラントは1Q中にフル稼働を計画。台湾でのコンパウンドとの一貫生産により、納期短縮・在庫圧縮を実現。 | <ul style="list-style-type: none"> データ通信のさらなる高速化を支える高機能電子デバイスに適用可能な新規ポリマーを投入し拡販。 販売数量は約7%の増加を計画。 |
| COC | <ul style="list-style-type: none"> 1Qの生産トラブルにより販売調整を実施。2Q以降は概ね安定運転継続。 | <ul style="list-style-type: none"> シュリンクフィルム、医療デバイスのCOC採用拡大に対応し、既存プラントはフル生産計画。販売数量は約45%の増加を計画。 | <ul style="list-style-type: none"> 2027年3月期から稼働する新プラント（2万トン）による増産効果により環境対応包装材向けや医療市場を中心に拡販。販売数量は約50%の増加を計画。 |

これまでの経過とこれから

- 取り巻く環境が急激かつ大きく変化する中、長期ビジョン「Daicel Vision 4.0」および中期戦略「Accelerate 2025」に沿い、事業構造の転換と事業の再編を積極的に推進
- SBU体制を軸にしたマーケットイン戦略を本格化
- ポリプラスチックとの経営・事業シナジーの効果拡大・推進
- 新事業創出、アセットライト化等は継続課題

推進継続中の重点事項

- ・ 自律型生産システムの横展開・加速
- ・ マイクロデバイスレジストポリマー製造からの導入
- ・ ビヨンドコーティングの推進
- ・ バイオマスバリューチェーン
- ・ ナノダイヤモンドの機能修飾
- ・ 無機・有機ハイブリッド材料

価値共創によって
人々を幸せにする会社

OP-III クロスバリューチェーン
多様なパートナーとの共感・共鳴とともに新しい価値創造へ

次期中期戦略策定し仕上げの5年へ

これまでの主な実施事項

- 富山フィルタートウ完全子会社化 (2025年4月)
- 高発泡プラスチック事業譲渡 (2025年3月)
- 有機半導体事業撤退 (2024年12月)

- 樹脂コンパウンド事業JV化 (2024年3月)
- ダイセルメディカル設立 (2023年10月)
- セイフティ生産地統廃合完了 (2023年10月)
- 医薬品開発製造受託事業譲渡 (2023年4月)

- 防衛事業撤退 (2023年3月)
- ダイセルビヨンド操業開始 (2022年10月)
- ポリプラスチック完全子会社化 (2020年10月)
- 事業組織改革(SBU制) (2020年4月)

OP-II 事業の再編：アセットスーパーライト

OP-I 事業構造の転換：アセットライト

これまでの経過とこれから

事業ポートフォリオを意識し「選択と集中」を含めた事業構造改革を継続、メリハリをつけた経営を実践

- 基盤事業：あくなきコストダウンによる生産性改善と資本効率の追求により、安定的にキャッシュを創出し、ROICを向上
- 成長牽引事業：積極的な設備投資を推進、グローバルでの存在感・競争力を一層高め、EBITDAの更なる拡大にも貢献
- 次世代育成事業：収益化を急ぐとともに、新たなアイテム（新事業・新製品・新用途）を上市

ROIC向上
基盤事業

マテリアル

アセテート・トウの新規顧客開拓、フル製造/フル販売継続によりROIC向上
酢酸セルロース全体での製法転換を進め、在庫圧縮による資本効率の改善、品質改善による拡販、および用途拡大による競争力強化を推進

EBITDA拡大
成長牽引事業

エンジニアリング プラスチック

増強設備投資の確実な立ち上げとグローバル・マーケティング力の強化を推進
POM、LCP、COCにおける増産プラントの投資効果の確実な刈り取りを実施（2025年3月期対比）

- POM：第1期をフル稼働継続、第2期を着実に2027年3月期中に稼働開始し、同年月期販売数量+11%を計画
- LCP：2025年6月末迄に確実にフル稼働させ、2027年3月期販売数量+24%を計画
- COC：2027年3月期に着実に稼働開始させ、2027年3月期販売数量+113%を計画

セイフティ

インド市場：エアバック装着率増加にあわせた現地拠点設備増強による拡販活動の推進
中国市場：現地メーカーが求める衝突性能へのさらなる向上等による市場シェア拡大

メディカル・ ヘルスケア

新規投与デバイスの医療機器薬事承認の早期取得・販売体制構築を核とした医療機器事業の拡大
需要増に対応するエクオール増産と第二、第三の柱となる新製品の投入によるヘルスケア事業の本格的な収益化

スマート

先端半導体（ロジック/メモリー）市場需要増加の取り込み、半導体後工程への当社製品投入、ダイセルビヨンド亀岡工場設備を活用した車載フィルム/大型ディスプレイ向けフィルムの販売数量の増加や新規用途の積極的な拡販活動を推進

事業収益化
次世代育成

2025年3月期 業績

対前年度：

- 自動車部品関連は、日系自動車メーカーの認証不正問題の影響を受けたものの、前第1四半期に顧客の在庫調整の影響を受けエンジニアリングプラスチックの販売が大きく減少していたことや、電子材料関連市場の需要が回復基調であること、為替影響などにより、売上高は増加。
- エンジニアリングプラスチックを中心とした販売数量の増加や、為替影響などがあったものの、COプラントのトラブル影響や減価償却費の増加等により営業利益は減少、EBITDAは増加。
- 特別利益は政策保有株式の売却益を計上、特別損失は事業構造改革に伴う損失を計上。

対予想：

- 日系自動車メーカーの認証不正問題の影響やCOプラントトラブルによる酢酸関連製品の販売数量の減少などがあり減収。営業利益はCOプラントの追加工事があったものの、為替が想定より円安で推移したことなどにより、微増。

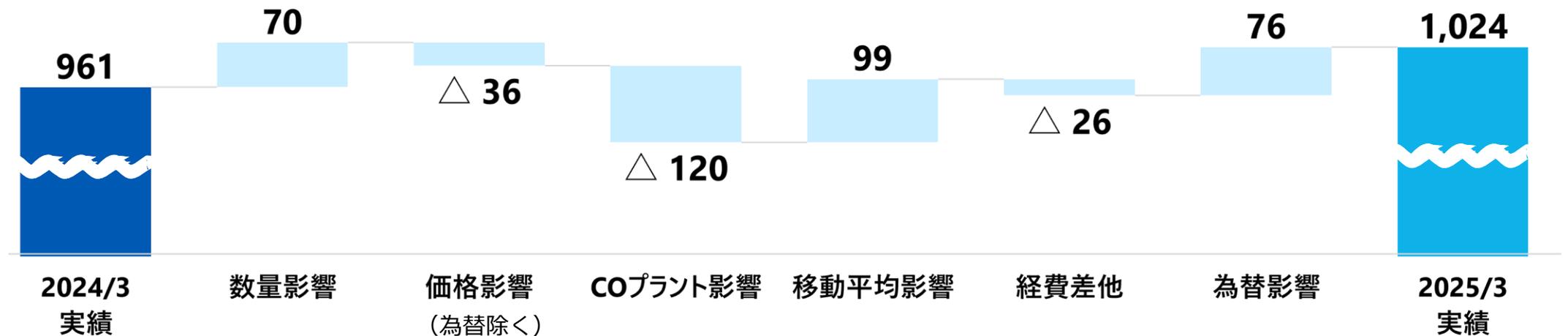
| 単位：億円 | 2024/3 実績 | 2025/3 予想(※) | 2025/3 実績 | 対前年度 | | 対予想 | | | 2024/3 実績 | 2025/3 予想(※) | 2025/3 実績 |
|-----------------|--------------|-----------------|--------------|------|--------|-------|-------|---------|--------------|-----------------|--------------|
| | | | | 増減 | 増減率 | 増減 | 増減率 | | | | |
| 売上高 | 5,581 | 6,000 | 5,865 | +285 | +5.1% | △ 135 | △2.2% | EBITDA | 961 | 1,025 | 1,024 |
| 営業利益 | 624 | 600 | 610 | △ 14 | △2.2% | +10 | +1.7% | ROE | 17.1% | 14.3% | 13.8% |
| 経常利益 | 684 | 600 | 623 | △ 61 | △8.9% | +23 | +3.9% | ROIC | 6.3% | 5.9% | 6.1% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 558 | 510 | 495 | △ 64 | △11.4% | △ 15 | △3.0% | ROA | 7.0% | 6.1% | 6.0% |
| 為替レートUSD/JPY | 145 | 149 | 153 | | | | | EPS (円) | 197.56 | 184.70 | 181.44 |

※ 2025年3月期業績予想：2024年11月7日発表の業績予想

2025年3月期 EBITDA増減分析

- COプラントトラブルの影響により酢酸関連の製品販売が影響を受けたものの、各事業における拡販や、工
ンプラ増設プラントの稼働により、数量影響はプラス。
- 価格影響（為替影響を除く）は、販売製品構成差や市況影響などによる販売価格低下によりマイナス。
- 為替影響（+76億円）により価格影響全体ではプラス。
- COプラントトラブル影響/計画停止の影響により△120億円。
- 為替レート（USD/JPY） 2024/3実績：145円 ⇒ 2025/3実績：153円

単位：億円



※COプラント影響および移動平均影響を別掲しているため、P11のセグメント別要因分析の分析値とは一致いたしません。

セグメント別 売上高・営業利益

| | 売上高 | | | | | | |
|----------------|--------------|------------------|--------------|------|--------|------|-------|
| | 2024/3 実績 | 2025/3 予想 (※) | 2025/3 実績 | 対前年度 | | 対予想 | |
| | | | | 増減 | 増減率 | 増減 | 増減率 |
| 単位：億円 | | | | | | | |
| メディカル・ヘルスケア | 139 | 150 | 144 | +5 | +3.7% | △6 | △3.7% |
| スマート | 338 | 380 | 373 | +35 | +10.4% | △7 | △1.8% |
| セイフティ | 956 | 1,000 | 976 | +20 | +2.1% | △24 | △2.4% |
| マテリアル | 1,822 | 1,910 | 1,834 | +12 | +0.6% | △76 | △4.0% |
| エンジニアリングプラスチック | 2,268 | 2,500 | 2,480 | +212 | +9.3% | △20 | △0.8% |
| その他事業 | 57 | 60 | 58 | +1 | +1.6% | △2 | △3.9% |
| 合計 | 5,581 | 6,000 | 5,865 | +285 | +5.1% | △135 | △2.2% |

| | 営業利益 | | | | | | |
|----------------|--------------|------------------|--------------|------|---------|-----|--------|
| | 2024/3 実績 | 2025/3 予想 (※) | 2025/3 実績 | 対前年度 | | 対予想 | |
| | | | | 増減 | 増減率 | 増減 | 増減率 |
| 単位：億円 | | | | | | | |
| メディカル・ヘルスケア | 8 | 7 | 3 | △5 | △67.0% | △4 | △62.7% |
| スマート | △9 | △3 | △8 | +1 | - | △5 | - |
| セイフティ | 30 | 52 | 39 | +9 | +31.4% | △13 | △24.4% |
| マテリアル | 408 | 295 | 296 | △112 | △27.4% | +1 | +0.4% |
| エンジニアリングプラスチック | 183 | 240 | 270 | +87 | +47.6% | +30 | +12.5% |
| その他事業 | 4 | 9 | 10 | +5 | +128.7% | +1 | +7.2% |
| 合計 | 624 | 600 | 610 | △14 | △2.2% | +10 | +1.7% |

| EBITDA | |
|--------------|--------------|
| 2024/3 実績 | 2025/3 実績 |
| 20 | 13 |
| 23 | 20 |
| 103 | 111 |
| 539 | 496 |
| 267 | 368 |
| 10 | 16 |
| 961 | 1,024 |

※ 2025年3月期業績予想は2024年11月7日発表の業績予想。

比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映：TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

セグメント別 売上高・営業利益（対前年度 増減・要因分析）

| | 売上高 | | | | | | |
|----------------|--------------|--------------|------|--------|------|------|---------------|
| | 2024/3 実績 | 2025/3 実績 | 増減 | 増減率 | 分析 | | |
| | | | | | 数量差 | 単価差 | 単価差の内 為替影響 |
| 単位：億円 | | | | | | | |
| メディカル・ヘルスケア | 139 | 144 | +5 | +3.7% | +1 | +5 | +6 |
| スマート | 338 | 373 | +35 | +10.4% | +40 | △5 | +11 |
| セイフティ | 956 | 976 | +20 | +2.1% | +14 | +6 | +35 |
| マテリアル | 1,822 | 1,834 | +12 | +0.6% | △47 | +58 | +79 |
| エンジニアリングプラスチック | 2,268 | 2,480 | +212 | +9.3% | +134 | +78 | +79 |
| その他事業 | 57 | 58 | +1 | +1.6% | +1 | - | - |
| 合計 | 5,581 | 5,865 | +285 | +5.1% | +143 | +142 | +210 |

| | 営業利益 | | | | | | | |
|----------------|--------------|--------------|------|---------|------|------|-----|----------------|
| | 2024/3 実績 | 2025/3 実績 | 増減 | 増減率 | 分析 | | | |
| | | | | | 数量影響 | 価格影響 | その他 | 営業利益の内 為替影響 |
| 単位：億円 | | | | | | | | |
| メディカル・ヘルスケア | 8 | 3 | △5 | △67.0% | +0 | +2 | △7 | +2 |
| スマート | △9 | △8 | +1 | - | +34 | △20 | △13 | +8 |
| セイフティ | 30 | 39 | +9 | +31.4% | +1 | △8 | +17 | +7 |
| マテリアル | 408 | 296 | △112 | △27.4% | △49 | +30 | △93 | +43 |
| エンジニアリングプラスチック | 183 | 270 | +87 | +47.6% | +45 | +37 | +5 | +16 |
| その他事業 | 4 | 10 | +5 | +128.7% | +5 | - | - | - |
| 合計 | 624 | 610 | △14 | △2.2% | +37 | +40 | △91 | +76 |

※ 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

セグメント事業概況（対前年度）

| セグメント | 主要製品 | 市場環境・当社の状況（対前年度） |
|--------------------|--|--|
| メディカル・ヘルスケア | キラル 関連製品 | <ul style="list-style-type: none"> キラル関連製品の需要は、海外を中心に堅調に推移したものの、中国での需要停滞によりキラルカラムの販売数量は微増。 前年同期に大型スポット案件があったことでキラルカラム用充填剤の販売は減少。 インドでの分析および合成サービスなどが増加。 |
| | 化粧品原料 健康食品素材 | <ul style="list-style-type: none"> 化粧品原料、健康食品素材ともに、好調なインバウンド需要を捉え、販売は好調に推移。 |
| スマート | カプロラクトン誘導体 脂環式エポキシ | <ul style="list-style-type: none"> カプロラクトン誘導体は、自動車塗料用途の需要が堅調に推移しており、主要市場である中国のウレタン需要も回復傾向を受け、販売数量は増加。 脂環式エポキシは、液晶パネルや電子基板用途など電子材料向け需要の緩やかな回復に伴う拡販により販売数量が増加。 |
| | フォトレジスト材料 電子材料向け溶剤 機能フィルム | <ul style="list-style-type: none"> 半導体市場、液晶パネル市場ともに緩やかな回復基調にあり、フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤の需要が増加し、販売数量が増加。 機能フィルムは、電池向け離型フィルムの需要低迷もあり、販売数量が減少。 |
| セイフティ | エアバッグ用 インフレーター | <ul style="list-style-type: none"> 日系自動車メーカーによる、認証不正問題の影響があったものの巻き返し生産や、中国政府の景気刺激政策などがあり、インフレータの販売数量は増加。 |

セグメント事業概況（対前年度）

| セグメント | 主要製品 | 市場環境・当社の状況（対前年度） |
|--------------------|-------------------|---|
| マテリアル | 酢酸 | <ul style="list-style-type: none"> 酢酸の販売数量はVAMやPTAなど主要誘導品の需要低下や、原料の一酸化炭素プラントの初期トラブルの影響により減少。 |
| | アセテート・トウ | <ul style="list-style-type: none"> アセテート・トウの需要は引き続き堅調に推移。 主にアジア地区への拡販などもあり販売数量は増加。 |
| | TAC※ | <ul style="list-style-type: none"> TACは、液晶パネル市場では顧客の在庫調整に入り、需要が低調なことなどにより販売数量は減少。 |
| | 1,3-BG | <ul style="list-style-type: none"> 1,3-BGは国内の化粧品市場は回復基調であり、海外においても拡販効果が出るなど、国内海外ともに販売数量が増加。 |
| エンジニアリング プラスチック | POM PBT PPS | <ul style="list-style-type: none"> 自動車部品用途は、日系自動車メーカーの認証不正問題や中国での日系自動車の販売不振による影響を受けたものの、顧客の在庫調整の影響で第1四半期に需要が低下した前年度と比較して需要が増加。 非日系自動車をはじめとする需要増加に伴いPOM、PBT、PPSの販売数量は増加。さらに、POMは中国での積極的な拡販により産業機器向けやOA向けが増加し、販売数量が増加。 POMの中国における新プラントは予定通り2024年11月から稼働開始。 |
| | LCP | <ul style="list-style-type: none"> 主に中国におけるスマートフォンやPC向けの需要回復に伴う拡販により販売数量は増加。 LCP増産プラントは予定通り2025年2月から稼働開始。 |
| | COC | <ul style="list-style-type: none"> 環境対応包装材向けや医療用途向けでの好調な需要により販売数量は増加。 |

※ TAC (Tri-acetyl cellulose) : 液晶保護フィルム用酢酸セルロース

連結貸借対照表

| 単位：億円 | | 2024年 3月末 | 2025年 3月末 | 増減 |
|----------|-----------|--------------|--------------|------|
| 流動資産 | | 4,095 | 3,956 | △139 |
| | 現金及び預金 | 732 | 651 | △80 |
| | 受取手形及び売掛金 | 1,144 | 1,139 | △5 |
| | 棚卸資産 | 1,825 | 1,779 | △46 |
| | その他 | 394 | 387 | △7 |
| 固定資産 | | 4,297 | 4,182 | △115 |
| | 有形固定資産 | 3,089 | 3,194 | +105 |
| | 無形固定資産 | 108 | 106 | △1 |
| | 投資その他資産 | 1,100 | 881 | △218 |
| 資産合計 | | 8,392 | 8,138 | △253 |
| 負債 | | 4,638 | 4,388 | △250 |
| | 有利子負債 | 3,041 | 2,861 | △180 |
| | その他 | 1,596 | 1,527 | △70 |
| 純資産 | | 3,754 | 3,750 | △4 |
| 負債純資産 合計 | | 8,392 | 8,138 | △253 |

- 総資産減少額253億円のうち、△53億円は為替影響。
- 有形固定資産増加の主な要因は、ポリプラスチックグループのPOM・LCP・COC製造能力増強投資。
- 投資その他資産は、主に投資有価証券の売却により減少。
- 有利子負債は、主に短期社債の償還により減少。

単位：億円

| | | 2024/3 | 2025/3 | 増減 |
|-----------------|-------------|--------|--------|------|
| | 営業キャッシュ・フロー | 767 | 934 | +167 |
| | 投資キャッシュ・フロー | △ 554 | △479 | +75 |
| フリーキャッシュフロー | | 214 | 455 | +242 |
| 財務キャッシュ・フロー | | △ 524 | △489 | +35 |
| その他 | | 59 | △3 | △63 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | | △ 251 | △36 | +214 |
| 現金及び現金同等物の当期末残高 | | 684 | 648 | △36 |

- COプラントトラブルなどの一過性要因があるものの、事業構造改革などにより営業CFは増加、政策保有株式の売却も進めフリーキャッシュフローは455億円と前年度より242億円増加。
- 手元流動性が改善し、短期社債の償還などを進め有利子負債を圧縮。

2026年3月期 業績予想

需要の増加機会を捉えた拡販の推進やエンジニアリングプラスチック増産などによる増収を計画。COプラントトラブルの解消やセイフティの事業構造改革の効果があるものの、為替想定が前期より円高であることや、エンジニアリングプラスチックの減価償却費や定修費用の増加などにより減益の見通し。

- 電子材料関連市場は需要の増加機会を確実に捉えた拡販を推進し、エンジニアリングプラスチックではPOM・LCPの新プラントの増産による拡販や自動車エアバッグ用インフレータの販売数量の増加などにより増収を計画。
- 各事業における販売数量増加やコストダウンの徹底、セイフティ事業の米国拠点の生産性改善の効果があるものの、為替の影響やエンジニアリングプラスチックでの減価償却費や定修費用の増加などにより減益の見通し。
- 特別損失が対前年度から減少することにより最終利益が増加し、EPSは203.67円を見込む。

単位：億円

| | 2025/3 実績 | 2026/3 予想 | 増減 | 増減率 |
|---------------------|--------------|--------------|------|--------|
| 売上高 | 5,865 | 6,000 | +135 | +2.3% |
| 営業利益 | 610 | 540 | △70 | △11.5% |
| 経常利益 | 623 | 560 | △63 | △10.1% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 495 | 540 | +45 | +9.1 % |
| 為替レート USD/JPY | 153 | 140 | | |

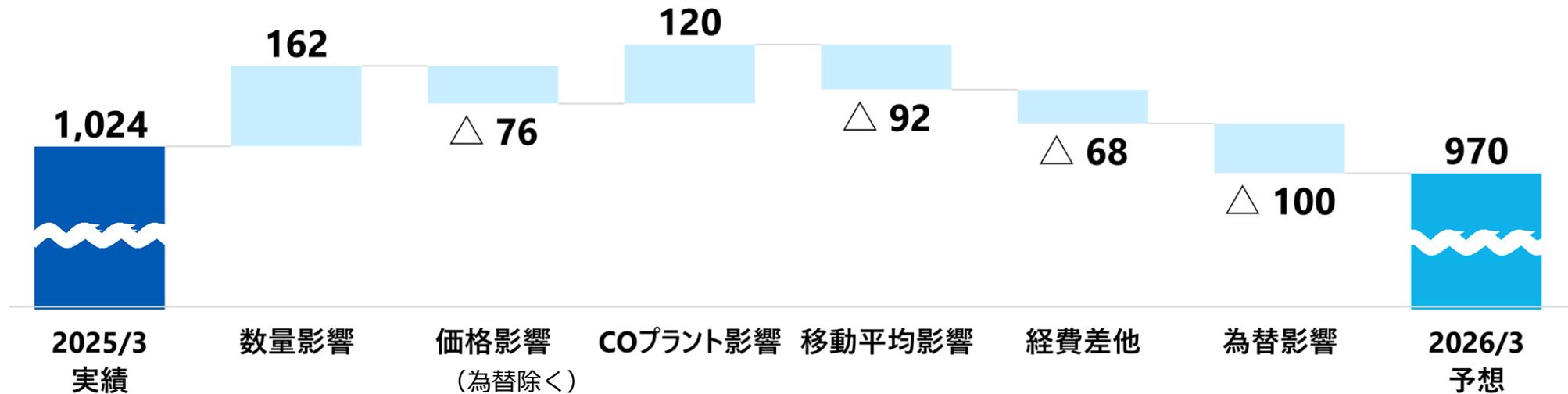
| | 2025/3 実績 | 2026/3 予想 |
|---------|--------------|--------------|
| EBITDA | 1,024 | 970 |
| ROE | 13.8% | 14.8% |
| ROIC | 6.1% | 5.4% |
| ROA | 6.0% | 6.6% |
| EPS (円) | 181.44 | 203.67 |

※2026年3月期業績予想には、米国の関税措置の影響は織り込んでいません。

2026年3月期 予想 EBITDA増減分析

- 需要増加による各事業の拡販や、エンジニアリングプラスチック増設プラントの稼働により、数量影響はプラス。
- COプラントトラブルは解消されるも（+120億円）、繰越在庫の影響が△92億円。
- 各事業において徹底したコストダウンを実施するものの、人件費を含む一般管理費の増加等により、経費差△68億円。
- 為替レート（USD/JPY） 2025/3実績：153円 ⇒ 2026/3予想：140円

単位：億円



2026年3月期 業績予想 セグメント別 売上高・営業利益

単位：億円

| | 売上高 | | | | 営業利益 | | | | EBITDA | |
|----------------|--------------|--------------|------|-------|--------------|--------------|-----|--------|--------------|--------------|
| | 2025/3 実績 | 2026/3 予想 | 増減 | 増減率 | 2025/3 実績 | 2026/3 予想 | 増減 | 増減率 | 2025/3 実績 | 2026/3 予想 |
| メディカル・ヘルスケア | 144 | 155 | +11 | +7.4% | 3 | 3 | +0 | +14.9% | 13 | 13 |
| スマート | 373 | 405 | +32 | +8.5% | △8 | 14 | +22 | - | 20 | 39 |
| セイフティ | 976 | 1,010 | +34 | +3.5% | 39 | 64 | +25 | +62.8% | 111 | 145 |
| マテリアル | 1,834 | 1,815 | △19 | △1.0% | 296 | 230 | △66 | △22.4% | 496 | 411 |
| エンジニアリングプラスチック | 2,480 | 2,560 | +80 | +3.2% | 270 | 221 | △49 | △18.2% | 368 | 349 |
| その他事業 | 58 | 55 | △3 | △4.6% | 10 | 8 | △2 | △17.1% | 16 | 13 |
| 合計 | 5,865 | 6,000 | +135 | +2.3% | 610 | 540 | △70 | △11.5% | 1,024 | 970 |

| セグメント | 主要製品 | 市場環境の見通し・当社事業への影響 | 当社の取り組み |
|-------------|-----------------|--|---|
| メディカル・ヘルスケア | キラル 関連製品 | <ul style="list-style-type: none"> キラル関連製品の需要は、中国における米国企業からのアウトソーシングの停滞が継続する影響があるが、インドにおけるジェネリック医薬企業向けなどが堅調に推移する見通しで、低分子医薬に加え、中・高分子医薬向け開発支援サービスも需要増大を見込む。 | <ul style="list-style-type: none"> キラルカラムは、引き続き堅調な需要を見込み販売増加を計画。インドでの中分子医薬向けサービスは、需要拡大に対応し販売増加を見込む。 ダイセルメディカル社の医療機器製造販売許可取得に続き、新規投与デバイスの医療機器薬事承認取得を目指し、現在薬事承認申請中（日本）。承認取得後に備え医療機器の販売体制を構築する。 |
| | 化粧品原料 健康食品原料 | <ul style="list-style-type: none"> 化粧品市場や健康食品市場は引き続き堅調に推移する見通し。 | <ul style="list-style-type: none"> 化粧品原料は、新規顧客開拓などにより販路拡大を図るとともに、BELLOCEA（真球状酢酸セルロース）の生分解性改良グレードなど新製品の拡販などにより、増収を計画。 健康食品原料は、好調な需要を取り込んだエクオールの拡販に加え、新製品の腸内代謝物「アストロホップ®」などの拡販を推進することで売上高の増加を計画。これら新製品をエクオールに次ぐ健康食品事業を牽引する大型製品に育成する。 |

セグメント別 事業計画 2026年3月期（対前年度）

| セグメント | 主要製品 | 市場環境の見通し・当社事業への影響 | 当社の取り組み |
|-------|---------------------------------|---|---|
| スマート | カプロラクトン誘導体 脂環式エポキシ | <ul style="list-style-type: none"> カプロラクトン誘導体は、ウレタン既存用途の需要は前年度並みを予想するものの、競合の増産により販売価格の低下を見込む。 脂環式エポキシは、電子材料市場の需要の増加や主に米国市場の市場シェア拡大を見込む。 | <ul style="list-style-type: none"> カプロラクトン誘導体は、価格競争力の強化と製品の品質改善を実施し、既存市場や新規用途発掘による拡販を行い差別化を図るものの、販売数量は減少を見込む。 脂環式エポキシは、需要増加に伴う拡販や、OLED封止材向け新規製品の拡販など、競合他社との差別化による拡販を進め、対前年度で販売数量の増加を計画。 |
| | フォトレジスト材料 電子材料向け溶剤 機能フィルム | <ul style="list-style-type: none"> AI向けを中心に半導体市場全体の需要増加や液晶パネル市場の需要増加を見込む。 機能フィルムは車載ディスプレイ用途の需要増加。 | <ul style="list-style-type: none"> フォトレジスト材料は、先端半導体（ロジック/メモリー）市場の需要増加を取り込み、ArF向けへの拡販を実施し、販売数量は増加を計画。EUV用途の早期採用や顧客による当社製品の評価ステージアップを図る。また、2026年3月期中にサンプルワーク用のマイクロ流体デバイスプラントの導入を計画。 半導体後工程においても、当社製品（フォトレジスト材料及び接着剤）を市場へ投入する計画。 電子材料向け溶剤は、先端半導体市場・液晶パネル材料市場の需要増加などにより、販売数量を対前年度で増加させる計画。 機能フィルムは、ダイセルビヨンド亀岡工場の設備を活用して、車載フィルム/大型ディスプレイ向けフィルムの販売数量の増加や、新規用途の積極的な拡販活動により、対前年度で販売数量を増加させる計画。 |

セグメント別 事業計画 2026年3月期（対前年度）

| セグメント | 主要製品 | 市場環境の見通し・当社事業への影響 | 当社の取り組み |
|-------|---------------|--|--|
| セイフティ | エアバッグ用インフレーター | <ul style="list-style-type: none"> 自動車生産台数は微増を見込むも、中国・インドでの生産台数は堅調に推移する見通しで、当社インフレータの需要も増加が見込まれる | <ul style="list-style-type: none"> インフレータの販売数量は、中国市場での衝突性能要求強化や、インド市場でのエアバック装着率の増加など市場動向を的確に捉え、拡販活動を推進することにより対前年度で増加を計画。 欧州EV用途電流遮断器を量産開始し、欧州・中国で拡販を計画。電流遮断器の産業用途など欧州・中国での販路開拓も強化。 グローバルの各拠点にて継続したコストダウンを徹底するとともに、部品、生産設備の現地調達化による投資コスト抑制、生産ライン立ち上げ期間の短縮を推進。 |
| マテリアル | アセテート・トウ | <ul style="list-style-type: none"> 世界のたばこ生産本数は前年度に引き続き横這いを見込み、アセテート・トウ需要は堅調に推移する見通し。 | <ul style="list-style-type: none"> アセテート・トウの販売は、大手タバコメーカーとの複数年契約をベースにした安定化に加え、新規顧客への拡販も進めフル製造/フル販売を継続し、ROIC向上に努める。 アセチルチェーン強化を目的に完全子会社化した富山フィルタートウと、ダイセルの網干工場・大竹工場の3拠点一体運営により、生産計画の柔軟性を高め、需要に応じた最適生産による収益強化を図る。 販売数量は対前年度より増加を計画。 |
| | TAC | <ul style="list-style-type: none"> 液晶ディスプレイは、1Qにおいては中国における補助金による買い替え需要好調の一方で、それ以降は反動を見込む。 保護フィルム用途において他素材との競争激化の見通し。 | <ul style="list-style-type: none"> 海外TACフィルムメーカーへの拡販を実施し販売数量は対前年度で横這いを計画。 酢酸セルロース全体で、製法転換を推進することにより、在庫圧縮による資本効率の改善、品質改善による拡販、および用途拡大に取り組み酢酸セルロースの競争力強化を図る。 |
| | 1,3BG | <ul style="list-style-type: none"> 国内及び海外の化粧品市場は堅調に推移。 | <ul style="list-style-type: none"> 化粧品原料は当社が高いブランド力を誇る無臭市場でのシェアを堅持するとともに、海外向けの拡販を継続し販売数量増加を計画。 |

セグメント別 事業計画 2026年3月期（対前年度）

| セグメント | 主要製品 | 市場環境の見通し・当社事業への影響 | 当社の取り組み |
|--------------------|-------------------|---|--|
| エンジニアリング プラスチック | POM PBT PPS | <ul style="list-style-type: none"> 全世界自動車生産台数は対前年度で微増を想定。 中国においてはPOMのアンチダンピング課税の影響があるものの、中国政府による消費財の買い替え補助金施策の強化による需要の増加を見込む。 | <ul style="list-style-type: none"> 中国市場における日系自動車メーカーはEVへの対応遅れにより需要減少の見込みだが、非日系メーカーへの拡販を進める。 中国における買い替え補助金施策により、自動車用途以外のOAや家電等向けへの拡販により販売数量増加を計画。 中国の第1期POM増産プラントはフル稼働を継続し、中国のアンチダンピング課税に対応するが、2026年度稼働予定の第2期プラント稼働まではマレーシア等からの応援出荷は続く。 AIサーバー向けのPPSやPBT需要が旺盛であり、それに応える供給体制を強化する。 ダイセル式生産革新の海外展開による生産安定化を図り、増産プラント（POM、LCP）の効果（生産量・使用率）を最大に引き出し、収益向上を図る。 |
| | LCP | <ul style="list-style-type: none"> スマートフォンやパソコンなどの電子デバイスは順調に回復。 | <ul style="list-style-type: none"> 電子関連の需要回復や、中国での買い替え補助金施策等により販売数量は増加を計画。 2025年2月に台湾にて稼働した増産プラントは2025年6月末までにフル稼働を計画。 |
| | COC | <ul style="list-style-type: none"> 環境対応包装材向けや医療用途向けの需要は引き続き好調。 | <ul style="list-style-type: none"> 旺盛な需要に対応し販売数量は増加を計画。 2026年度稼働予定の増産プラント稼働後は大幅な拡販を計画。 |

重要経営指標（ROIC・EBITDA等）の進捗について

2025年3月期

- **ROIC6.1%**（△0.2pp）と若干の低下
- 営業利益は微減だが事業整理・減損などの特別損失により親会社株主に帰属する当期純利益が減少しROE・ROAともに大きく低下。
- 棚卸資産圧縮等により投下資本190億円減少。

2026年3月期

- **ROIC5.4%**（△0.7pp）と低下
- 主要因は営業利益低下、固定資産増（海外投資）も影響。
- 前期の一過性影響が消滅し株式売却継続および移転補償金受入により親会社株主に帰属する当期純利益を押し上げ、**ROE・ROAは改善見込み**。

単位：%

| | 2024/3 実績 | 2025/3 実績 | 2026/3 予想 | 対前年度 増減 |
|-------------|--------------|--------------|--------------|------------|
| ROE | 17.1% | 13.8% | 14.8% | +1.0pp |
| ROIC | 6.3% | 6.1% | 5.4% | △0.7pp |
| ROA | 7.0% | 6.0% | 6.6% | +0.6pp |
| WACC | 4.6% | 4.4% | 4.4% | |

利益要因

単位：億円

| | 2024/3 実績 | 2025/3 実績 | 2026/3 予想 | 対前年度 増減 |
|-----------------|--------------|--------------|--------------|------------|
| EBITDA | 961 | 1,024 | 970 | △54 |
| 営業利益 | 624 | 610 | 540 | △70 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 558 | 495 | 540 | +45 |

資産要因

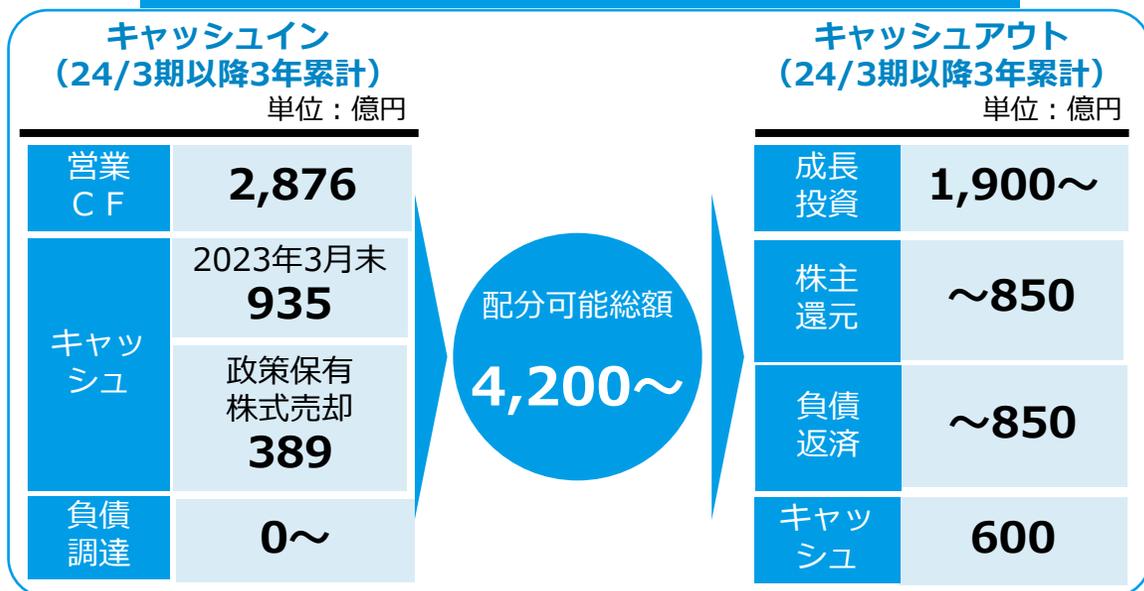
単位：億円

| | 2024/3 実績 | 2025/3 実績 | 2026/3 予想 | 対前年度 増減 |
|-------------|--------------|--------------|--------------|------------|
| 現預金 | 684 | 648 | 620 | △28 |
| 運転資本 | 2,347 | 2,306 | 2,171 | △70 |
| 固定資産 | 4,297 | 4,182 | 4,400 | +218 |

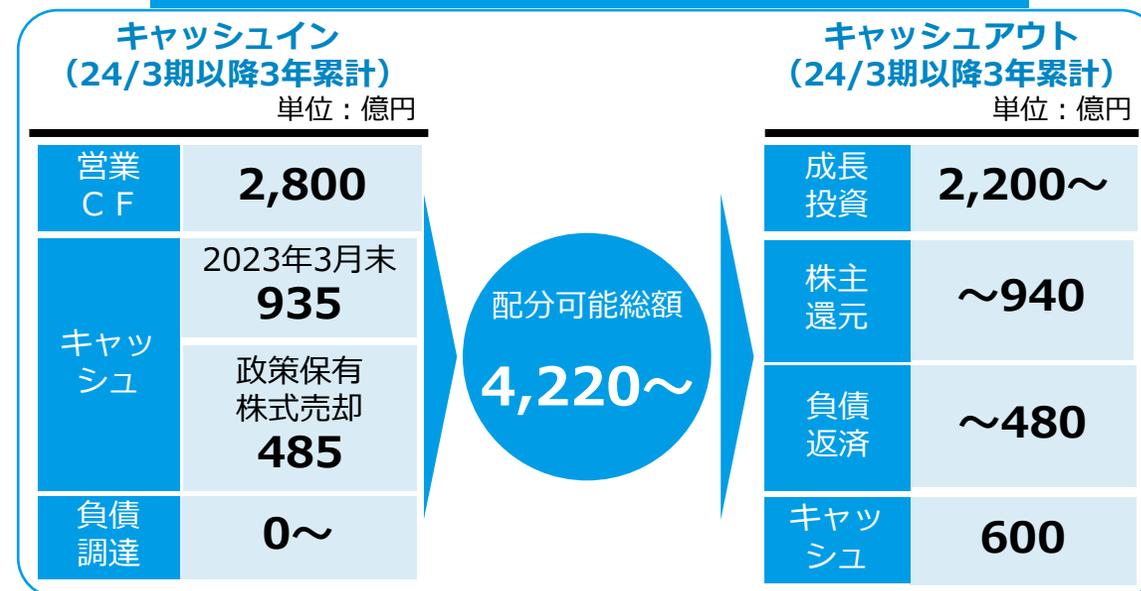
キャッシュアロケーションおよび政策保有株式の状況

- キャッシュ創出力は中期戦略と同程度を維持しており、キャッシュアロケーションを機動的に見直し成長投資への配分および株主還元を強化。
- 政策保有株式は縮減を進め2025/3期末時点でみなし保有含みの純資産割合20%以下となった。

2023年5月中期戦略見直し時点



現時点での見直し



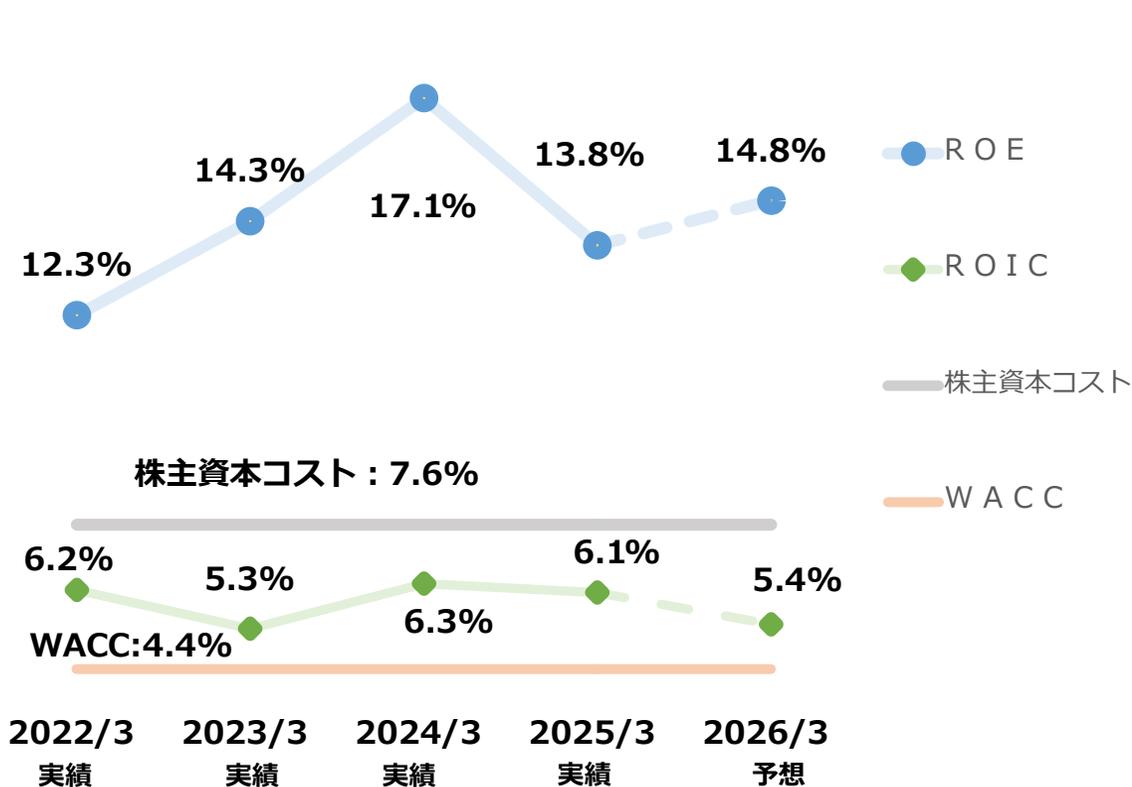
政策保有株式縮減状況

| | 2025/3 (実績) | 2026/3 (計画) |
|--------------------|----------------|----------------|
| 連結純資産割合 (みなし保有含まず) | 12.2% | 7.7% |
| 連結純資産割合 (みなし保有含む) | 17.0% | 12.3% |

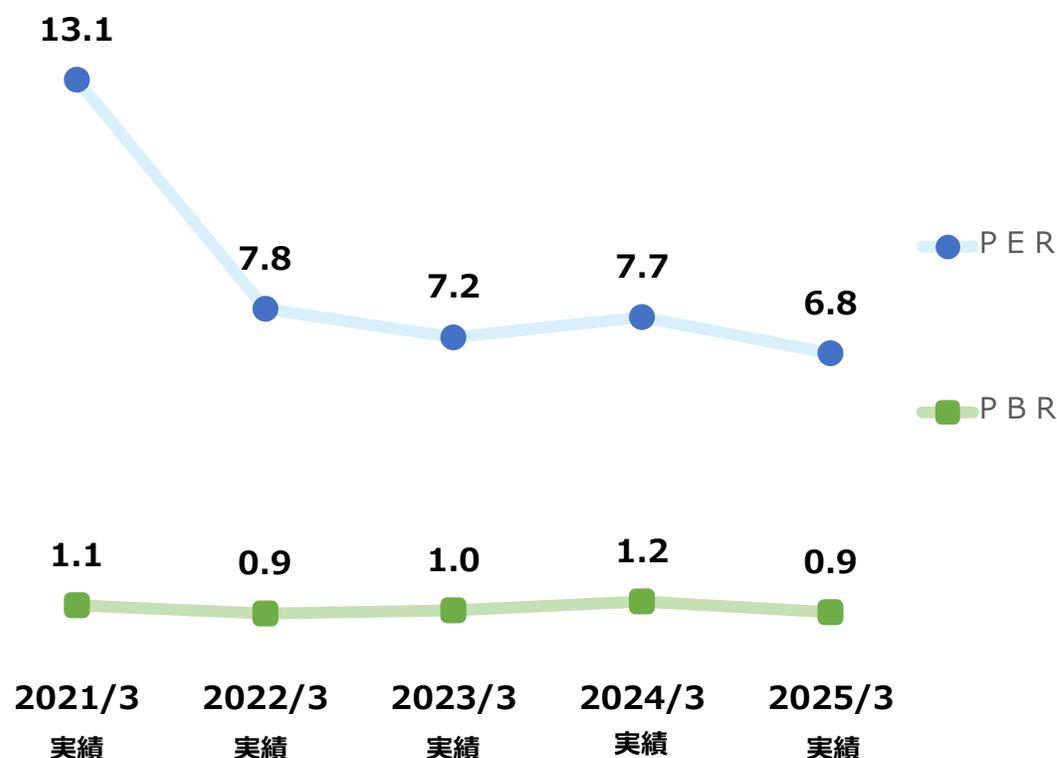
資本収益性指標および株価関連指標について

- 2025年3月期は営業利益微減に加えて事業整理・減損損失計上により親会社株主に帰属する当期純利益減少、**ROE13.8% (△3.3pp)**、**ROIC6.1% (△0.2pp)** となるがROEは株主資本コスト、ROICはWACCと、**対応する資本コストを上回る水準維持**。
- 株価関連指標については、**PBRが0.9倍に低下**。また**PERも7倍前後で推移**しており、これら株価指標の状況は課題であると認識。これまで取り組んできた各種施策の効果実現により向上を目指す。
- 2026年3月期は**営業減益によりROIC5.4% (△0.7pp)** となるが、一過性要因の消滅および移転補償金受入等により親会社株主に帰属する当期純利益押し上げ、**ROE14.8% (+1.0pp)** と改善。

ROEおよびROICと資本コストの推移



株価関連指標推移 (単位: 倍)



※株主資本コストはCAPMにより算出

「総還元性向40%以上」「DOE4%以上」との方針に則り安定的な株主還元を維持

2025年3月期

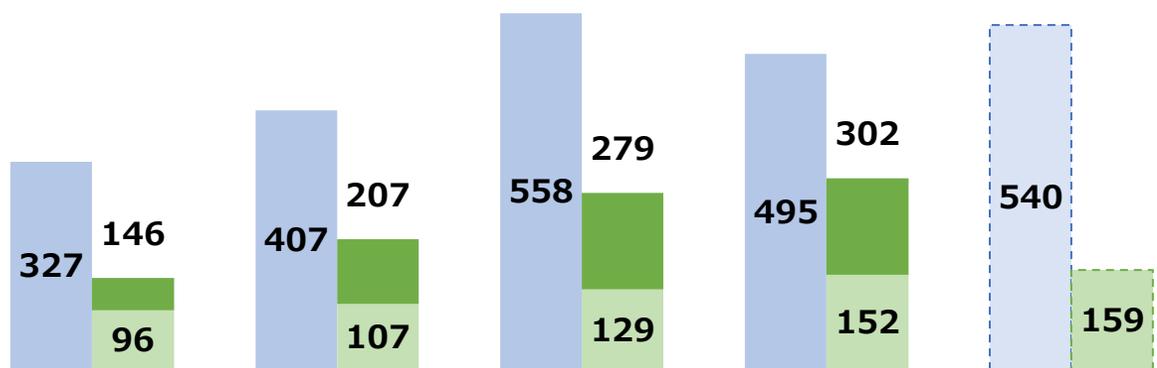
- ・ 期末配当計画 30円/株
(年間配当60円/株 前期から10円増配)
- ・ 約**150億円** (1,098万株) の**自己株式を取得**
(取得期間：2024年11月～2025年2月)

2026年3月期

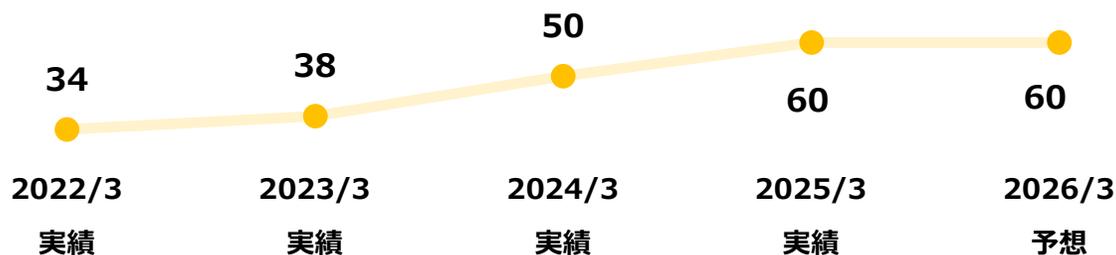
- ・ 中間配当計画 30円/株
- ・ 期末配当計画 30円/株
(年間配当60円/株 前期と同額)
- ・ **1,000万株**の**自己株式消却を決定**

親会社株主に帰属する当期純利益および株主還元額推移 (単位：億円)

■ 親会社株主に帰属する当期純利益 ■ 総還元のうち配当還元額 ■ 総還元額

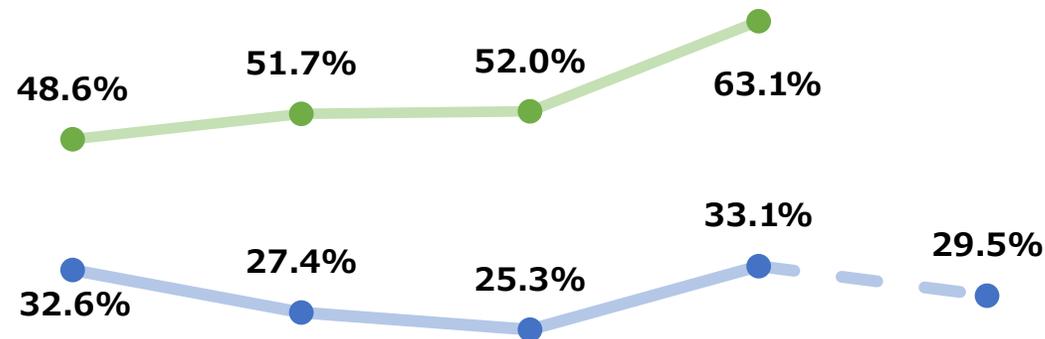


● 1株当たり配当額 (単位：円)



株主還元指標推移

● 配当性向 ● 総還元性向



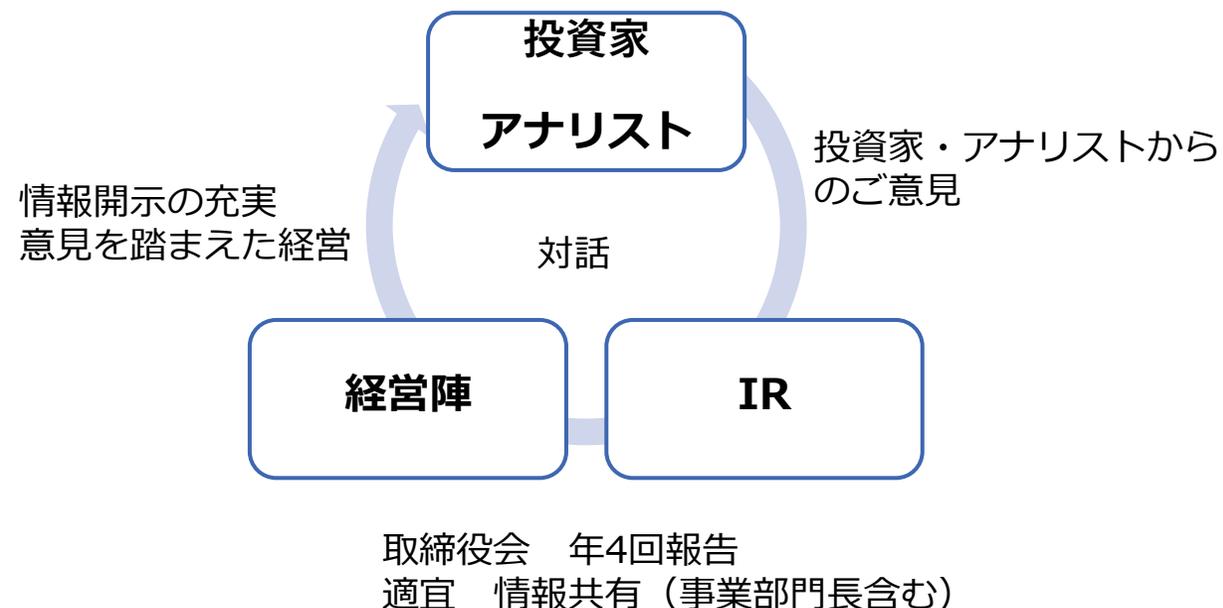
● DOE (株主資本配当率)



市場との双方向の対話を強化し、引き続き企業価値向上に取り組む

投資家、アナリストの皆様からいただいたご意見も参考にした当社のアクション

- 役員報酬について、2025年度より業績連動賞与の計算を「連結売上高・連結営業利益」から「連結売上高・**EBITDA**・**ROIC**」に変更。
- 株主還元については、2024年度より総還元性向40%以上に加え**DOE 4%以上を導入**。
- 資本コストや株価を意識した経営については、会社全体の資本効率等の計画・コントロールを担う組織を設置し、経営指標であるROICを意識した事業活動を推進。
- 政策保有株式の縮減を進めており、その進捗や計画についての開示を招集通知のみではなく2024年度期末決算説明資料や有価証券報告書へも開示を拡大。



| 主な活動 | 2023/3 | 2024/3 | 2025/3 |
|---------------|--------|--------|--------|
| 個別取材（1on1） | 115件 | 162件 | 160件 |
| 海外ロードショー（対面） | 0回 | 2回 | 2回 |
| 証券会社主催カンファレンス | 1回 | 3回 | 3回 |
| 事業説明会 | 3回 | 2回 | 0回 |
| 工場見学会 | 0回 | 0回 | 1回 |
| 個人投資家説明会 | 2回 | 0回 | 1回 |

Appendix

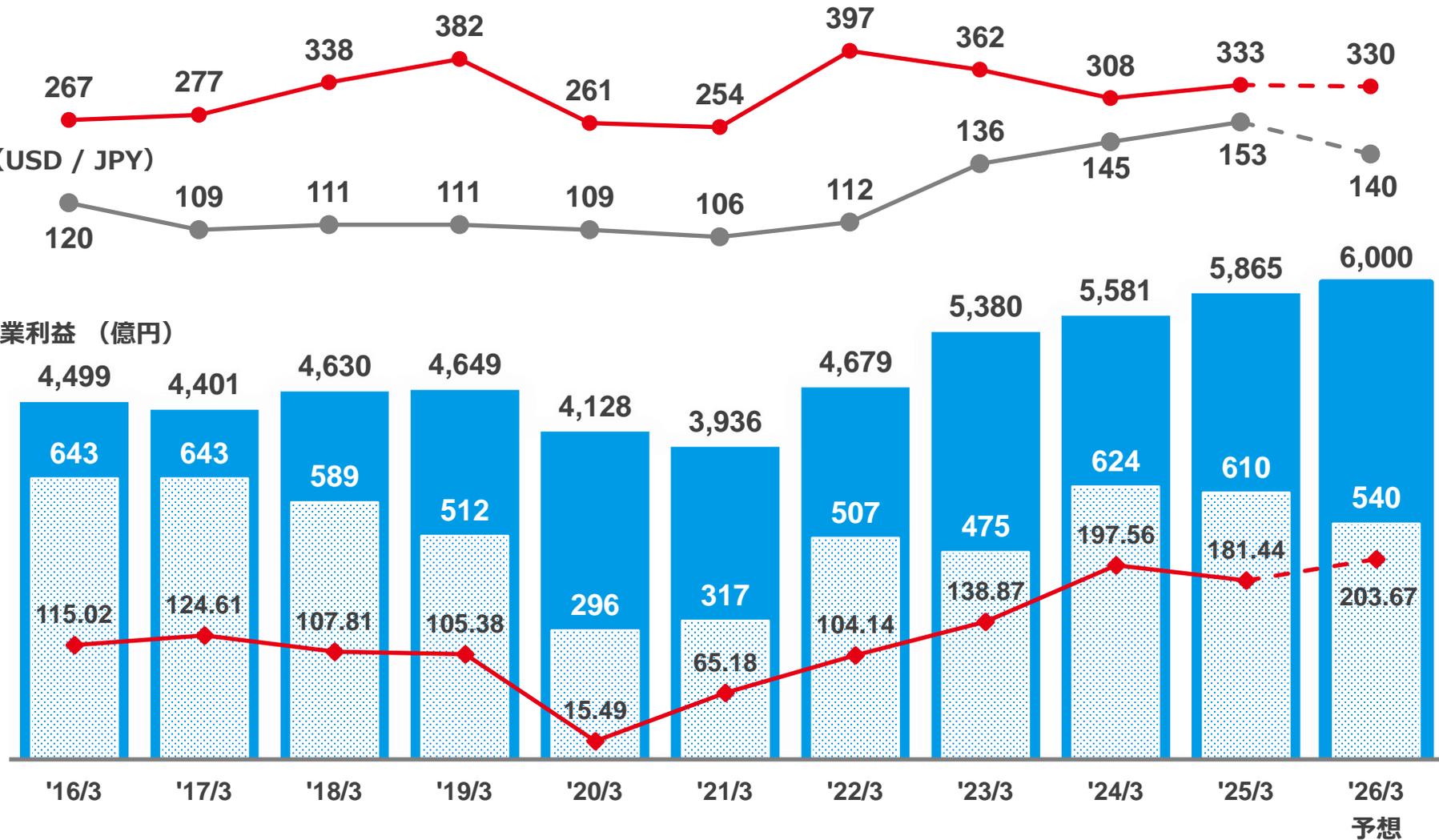
売上高・営業利益・EPSの推移

●メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)

●為替レート (USD / JPY)

■売上高・□営業利益 (億円)

◆EPS (円)



セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

| 単位：億円 | 売上高 | | | | | | | |
|----------------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 2024/3 | | | | 2025/3 | | | |
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| メディカル・ヘルスケア | 34 | 35 | 36 | 34 | 35 | 37 | 37 | 36 |
| スマート | 84 | 84 | 83 | 87 | 103 | 93 | 89 | 88 |
| セイフティ | 224 | 247 | 256 | 229 | 233 | 238 | 257 | 248 |
| マテリアル | 452 | 439 | 433 | 499 | 445 | 440 | 407 | 542 |
| エンジニアリングプラスチック | 503 | 584 | 608 | 573 | 627 | 618 | 623 | 612 |
| その他事業 | 12 | 13 | 15 | 16 | 13 | 16 | 16 | 14 |
| 合計 | 1,308 | 1,402 | 1,433 | 1,438 | 1,456 | 1,441 | 1,429 | 1,540 |

| 単位：億円 | 営業利益 | | | | | | | |
|----------------|--------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|
| | 2024/3 | | | | 2025/3 | | | |
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| メディカル・ヘルスケア | 3 | 2 | 4 | △1 | 1 | 1 | 2 | △1 |
| スマート | 1 | 0 | △4 | △6 | 5 | △3 | △8 | △2 |
| セイフティ | △7 | 5 | 25 | 6 | △0 | 14 | 17 | 9 |
| マテリアル | 86 | 112 | 93 | 116 | 91 | 53 | 48 | 105 |
| エンジニアリングプラスチック | 7 | 54 | 60 | 62 | 77 | 75 | 54 | 64 |
| その他事業 | △0 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 4 | 3 |
| 合計 | 91 | 175 | 179 | 179 | 175 | 141 | 116 | 178 |

※ 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

セグメント別 事業概況 2025年3月期下期実績（対予想）

| | |
|-----------------------|--|
| <p>メディカル・ヘルスケア</p> | <ul style="list-style-type: none"> キラル関連製品は、米国でのキラルカラム販売やインドの受託サービス事業が計画を上回ったものの、中国での受託サービスやインドでの分析サービスが計画を下回った。 国内化粧品メーカーの中国向け販売の苦戦や新規採用の評価遅れなどによりコスメ事業の売上高は計画未達となったが、健康食品事業はインバウンド需要の増加をとらえて計画以上の拡販を達成。 |
| <p>スマート</p> | <ul style="list-style-type: none"> カプラクトン誘導体は、生産設備改善等により販売調整を実施し販売数量が計画より減少。 脂環式エポキシは、液晶パネル市場や電子材料向け需要の回復に伴い、販売数量が増加。 レジスト材料は、半導体市場の需要の回復は続くも、国内顧客向けの販売数量が減少し、計画未達。 電子材料溶剤は、半導体および液晶パネル市場の需要の回復が続くも、想定より販売数量が伸びず計画未達。 機能フィルムは、燃料電池向け市場の需要の悪化や、海外市場での新規用途立ち上げが遅れていることなどにより販売数量は計画より減少。 |
| <p>セイフティ</p> | <ul style="list-style-type: none"> 一部日系自動車メーカーの不正問題や中国自動車メーカーの販売鈍化により、インフレータの販売数量は計画未達。 |
| <p>マテリアル</p> | <ul style="list-style-type: none"> 酢酸の販売数量は、VAMやPTAなど主要誘導品の需要が低調に推移したことや、一酸化炭素プラント追加工事の影響などにより計画を下回った。酢酸市況はほぼ想定範囲内で推移。 アセテート・トウは、堅調な需要が継続し3Qまでの顧客の在庫調整は4Qにて解消。さらにアジア地区を中心とした拡販等の結果、販売数量はほぼ計画並みとなった。 TACは、液晶パネル市場の回復傾向が落ち着き顧客の在庫調整のため、販売数量は計画を下回った。 1,3-BGは、国内化粧品市場が回復基調であり、海外への拡販も効果が出てきたことにより、販売数量は計画を上回った。 |
| <p>エンジニアリングプラスチック</p> | <ul style="list-style-type: none"> POMの販売数量は、自動車向けは計画並みであるものの中国の消費財買い替え施策等でOAや家電向けなどが増加し、販売数量は計画より微増。PBTはOAや家電向け販売数量が増加したが、産業機器向けで販売数量が減少したことなどにより計画より微減。PPSは、日系自動車向け販売数量の減少などがあり、計画よりも若干の減少。 LCPは通信インフラ向けの販売数量が減少し計画より減少。 環境対応包装材向けや医療用途向けの堅調な需要によりCOCの販売数量は計画並み。 |

セグメント別 営業利益 2025年3月期 (対前年度 増減・要因分析)

| | | 営業利益 | | |
|----------------|------|------|--|--------|
| 単位：億円 | | 分析 | 増減 | 主な増減要因 |
| メディカル・ヘルスケア | 数量影響 | +0 | — | |
| | 価格影響 | +2 | 為替影響 | |
| | その他 | △7 | 販売数量増加に伴う経費増加 | |
| スマート | 数量影響 | +34 | 電子材料関連市場の需要回復に伴う過酢酸誘導体製品やフォトレジスト関連の販売数量増加 | |
| | 価格影響 | △20 | 販売製品の価格構成差と原燃料価格の上昇 | |
| | その他 | △13 | 販売数量増加に伴う経費の増加や在庫処分費用 | |
| セイフティ | 数量影響 | +1 | インフレータの販売数量増加 | |
| | 価格影響 | △8 | 販売製品の価格構成差 | |
| | その他 | +17 | 北米の生産拠点の統合に伴う固定費等の減少 | |
| マテリアル | 数量影響 | △49 | 一酸化炭素プラントのトラブル影響による販売数量の減少 | |
| | 価格影響 | +30 | 為替影響 (+) や酢酸市況の低下 (△) | |
| | その他 | △93 | 一酸化炭素プラント稼働による減価償却費の増加 (△) や在庫影響 (+) | |
| エンジニアリングプラスチック | 数量影響 | +45 | 拡販による販売数量の増加 | |
| | 価格影響 | +37 | 販売価格の是正と為替影響 | |
| | その他 | +5 | 今期の定期修繕が小規模であったことによる経費減少 (+) や減価償却費の増加 (△) | |

単位：億円

| | 2021/3 実績 | 2022/3 実績 | 2023/3 実績 (※1) | 2023/3 実績 (※1・2) | 2024/3 実績 (※1) | 2024/3 実績 (※1・3) | 2025/3 実績 (※1) | 2026/3 予想 (※1) |
|--------------------|--------------|--------------|----------------------|------------------------|----------------------|------------------------|----------------------|----------------------|
| メディカル・ヘルスケア | 87 | 10 | 27 | 22 | 19 | 19 | 9 | 15 |
| スマート | 20 | 29 | 42 | 42 | 26 | 30 | 23 | 40 |
| セイフティ | 88 | 77 | 90 | 90 | 94 | 94 | 110 | 120 |
| マテリアル | 116 | 188 | 86 | 91 | 174 | 169 | 115 | 240 |
| エンジニアリング プラスチック | 71 | 74 | 306 | 306 | 457 | 457 | 433 | 290 |
| その他事業・全社 | 14 | 30 | 12 | 12 | 4 | 4 | 3 | 5 |
| 合 計 | 396 | 408 | 563 | 563 | 775 | 775 | 695 | 710 |

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

単位：億円

| | 2021/3 実績 | 2022/3 実績 | 2023/3 実績 (※1) | 2023/3 実績 (※1・2) | 2024/3 実績 (※1) | 2024/3 実績 (※1・3) | 2025/3 実績 (※1) | 2026/3 予想 (※1) |
|--------------------|--------------|--------------|----------------------|------------------------|----------------------|------------------------|----------------------|----------------------|
| メディカル・ヘルスケア | 14 | 14 | 28 | 15 | 11 | 11 | 11 | 10 |
| スマート | 16 | 20 | 27 | 27 | 29 | 31 | 28 | 25 |
| セイフティ | 47 | 50 | 65 | 65 | 71 | 71 | 71 | 80 |
| マテリアル | 90 | 90 | 97 | 110 | 131 | 129 | 199 | 180 |
| エンジニアリング プラスチック | 69 | 70 | 86 | 86 | 82 | 82 | 95 | 125 |
| その他事業・全社 | 22 | 25 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 5 |
| 合 計 | 258 | 269 | 308 | 308 | 330 | 330 | 410 | 425 |

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

単位：億円

| | 2021/3 実績 | 2022/3 実績 | 2023/3 実績 (※1) | 2023/3 実績 (※1・2) | 2024/3 実績 (※1) | 2024/3 実績 (※1・3) | 2025/3 実績 (※1) | 2026/3 予想 (※1) |
|--------------------|--------------|--------------|----------------------|------------------------|----------------------|------------------------|----------------------|----------------------|
| メディカル・ヘルスケア | 21 | 19 | 22 | 28 | 24 | 24 | 27 | 30 |
| スマート | 27 | 36 | 42 | 42 | 40 | 48 | 50 | 42 |
| セイフティ | 51 | 56 | 63 | 57 | 60 | 60 | 72 | 80 |
| マテリアル | 16 | 15 | 28 | 28 | 38 | 31 | 35 | 35 |
| エンジニアリング プラスチック | 35 | 37 | 61 | 61 | 68 | 68 | 73 | 80 |
| その他事業・全社 | 46 | 45 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 合 計 | 195 | 207 | 219 | 219 | 234 | 234 | 259 | 270 |

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

2026年3月期 業績予想

| | | 2025/3 実績 | | | 2026/3 予想 | | | 増減 |
|--------------------|----------------|-----------|-------|-------|-----------|-------|-------|------|
| | | 上期実績 | 下期実績 | 年間 | 上期実績 | 下期予想 | 年間 | |
| 単位：億円 | | | | | | | | |
| | メディカル・ヘルスケア | 72 | 73 | 144 | 75 | 80 | 155 | +11 |
| | スマート | 196 | 177 | 373 | 200 | 205 | 405 | +32 |
| | セイフティ | 471 | 506 | 976 | 500 | 510 | 1,010 | +34 |
| | マテリアル | 885 | 949 | 1,834 | 830 | 985 | 1,815 | △19 |
| | エンジニアリングプラスチック | 1,245 | 1,234 | 2,480 | 1,270 | 1,290 | 2,560 | +80 |
| | その他事業 | 28 | 29 | 58 | 25 | 30 | 55 | △3 |
| 売上高 | | 2,897 | 2,968 | 5,865 | 2,900 | 3,100 | 6,000 | +135 |
| | メディカル・ヘルスケア | 2 | 1 | 3 | △2 | 5 | 3 | +0 |
| | スマート | 2 | △10 | △8 | 7 | 7 | 14 | +22 |
| | セイフティ | 13 | 26 | 39 | 29 | 35 | 64 | +25 |
| | マテリアル | 143 | 153 | 296 | 78 | 152 | 230 | △66 |
| | エンジニアリングプラスチック | 152 | 118 | 270 | 110 | 111 | 221 | △49 |
| | その他事業 | 3 | 6 | 10 | 3 | 5 | 8 | △2 |
| 営業利益 | | 316 | 294 | 610 | 225 | 315 | 540 | △70 |
| 経常利益 | | 307 | 316 | 623 | 235 | 325 | 560 | △63 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 321 | 174 | 495 | 250 | 290 | 540 | +45 |
| (参考) 為替レート USD/JPY | | 153 | 152 | 153 | 140 | 140 | 140 | |

為替レート・主要原燃料価格動向

| | | 2024/3 実績 | | 2025/3 実績・計画 | | | 2026/3 計画 |
|--------------------|---------------------------------|-----------|--------|--------------|---------|---------|-----------|
| | | 上期 | 下期 | 上期 (実績) | 下期 (計画) | 下期 (実績) | 通期 |
| 為替レート (USD/JPY) | | 141 | 148 | 153 | 145 | 152 | 140 |
| 原料 | メタノール アジアスポット価格 (USD/ton) | 295 | 322 | 332 | 320 | 334 | 330 |
| | 原油 ドバイ (USD/bbl) | 82 | 82 | 82 | 85 | 75 | 75 |
| | 国産ナフサ (円/kl) | 65,550 | 72,800 | 77,950 | 72,000 | 74,000 | 67,000 |

セグメントの主な製品

| セグメント | サブセグメント | 主な製品 |
|----------------|---------------|---|
| メディカル・ヘルスケア | ライフサイエンス | クロマトグラフィー用カラム・充填剤（キラル・アキラル）、キラル試薬、受託分取・精製サービス、分析サービス、合成サービス、遺伝子解析研究試薬、医薬品添加剤、新規投与デバイス |
| | ヘルスケア | 化粧品原料（ポリグリセリン誘導体、酢酸セルロース真球微粒子（BELLOCEA®）など）、機能性食品素材（エクオール、こんにゃくセラミド、ウロリチン、ラクトビオン酸など） |
| スマート | ファンクショナルプロダクツ | 脂環式エポキシ*、カプロラクトン誘導体*、オプティカルレンズ |
| | アドバンステクノロジー | フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、機能フィルム |
| セイフティ | モビリティ | 自動車エアバッグ用インフレーター |
| | インダストリー | 電流遮断器、シートベルトプリテンショナー用ガス発生器（PGG） |
| マテリアル | アセチル | 酢酸、無水酢酸、アセテート・トウ |
| | ケミカル | 液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）*、酢酸セルロース、1,3-BG、酢酸エチル、ケテン誘導体、エチルアミン |
| エンジニアリングプラスチック | ポリプラスチック社 | ポリアセタール（POM）、ポリブチレン・テレフタレート（PBT）、ポリフェニレン・サルファイド（PPS）、液晶ポリマー（LCP）、環状オレフィン・コポリマー（COC） |
| | ダイセルミライズ社 | 水溶性高分子（CMC）、包装用バリアフィルム、AS樹脂 |

* 2024年4月1日付でスマート⇄マテリアルで移管を行った製品です。

外部評価 ESGインデックス

ダイセルグループでは循環型社会の実現に向け、お客様やパートナーと共に、持続可能な社会 づくりに取り組んでいます。

ダイセルは、世界最大級の年金基金である年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が採用している、国内株式を対象とする6つのESG指数すべての構成銘柄に選定されております。（2025年4月末時点）
さらに2025年のMSCI ESG Ratings において、「AA」評価を獲得しました。

- ◆ MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数
- ◆ MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)
- ◆ S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数
- ◆ FTSE Blossom Japan Index
- ◆ FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- ◆ Morningstar 日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）

2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数



2024 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)



FTSE Blossom Japan Index



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index



EcoVadis（エコバディス）社（本社：フランス）の2025年サステナビリティ調査において、「ゴールド」評価を獲得いたしました。



「健康経営優良法人2025（大規模法人部門「（ホワイト500）」）」の認定を受けました。（ダイセル：6年連続）



この他にも、FTSE4Good Index SeriesやSOMPOサステナビリティ・インデックスの継続選定、2024年5月から新たに iSTOXX® MUTB Japan プラチナキャリア 150 インデックスにも採用されております。

※各インデックス情報の詳細等は、ダイセルのWEBサイト[参画するイニシアティブ・外部からの評価 | サステナビリティ | 株式会社ダイセル \(daicel.com\)](https://www.daicel.com) をご参照ください。

- **本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。**

- **ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。**
 - ・ **本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。**
 - ・ **いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。**